

# 業績 2024

## 学会発表

### 国際学会

1. Takeshi Nakahara. Skin disease treatment targeting itch. The 75th KDA Annual Spring Meeting (Invited lecture) 2024年3月18日(韓国、釜山)
2. Tsuji G. Regulatory Mechanism of the IL-33-IL-37 Axis via Aryl Hydrocarbon Receptor in Atopic Dermatitis and Psoriasis. 6th International AHR meeting (Düsseldorf, Germany), 2024.
3. Ito T, Tanaka Y, Kaku-Ito Y, Nakahara T. Trophoblast cell surface antigen 2: A potential therapeutic target for extramammary Paget disease. The 14th Meeting of the German-Japanese Society of Dermatology 2024/6/26-30. Shizuoka, Japan
4. Yamamura K. The Role of OX40/OX40L Axis in Atopic Dermatitis. Symposium: The role of regulatory T cells in inflammatory Skin disease at Seoul National University. Jan 19, 2024, Seoul, Korea
5. Yamamura K. The Mechanism of IL-31 Production by the Emerging Transcription Factor EPAS1. The 33rd International Symposium of Itch. Nov 9, 2024, Tokyo
6. Yamamura K, Murai-Yamamura M, Garcet S, Dahabreh D, Gonzalez J, Miura S, Hur HB, Li X, Renert-Yuval Y, Estrada Y, Czarnowicki T, Nakahara T, Krueger JG, Guttman-Yassky E. OX40/OX40L axis associates with atopic skin inflammation through impairing IL-10 production in regulatory T cells. JSID, Dec 7, 2024, Nagoya
7. Eriko Maehara, Makiko Kido-Nakahara, Yasuyuki Fujita, Kiyoko Kato, Saki Kido, Ryo Yamasaki, Satoshi Nagata, Junji Kishimoto, Hiroko Watanabe, Eri Harada, Yumiko Nagashima, Eisuke Umeno, Gaku Tsuji, Hitokazu Esaki, Takeshi Nakahara. Stratum corneum interleukin-2 in eczema at 1-month-old predicts later atopic dermatitis. 14th Georg Rajka International Symposium on Atopic Dermatitis. 2024/10/24-26 Qatar, Doha
8. Toshio Ichiki, Takamichi Ito, Takeshi Nakahara. A brown nodule on the thigh of a 48-year-old Japanese female. The 22nd annual meeting of the Korean Society of Dermatopathology, 2024/5/18, Seoul, Korea

9. Toshio Ichiki, Takamichi Ito, Takeshi Nakahara. PRAME expression in fibrosarcomatous dermatofibrosarcoma protuberans. The 18<sup>th</sup> Annual Meeting of Taiwanese Society of Investigative Dermatology, 2024/11/16–17, Taipei, Taiwan
10. Wang L, Ichiki T, Kuma Y, Ohno F, Ito T, Oda Y, Nakahara T. A Subcutaneous Nodule Arising on the Upper Arm. the 5th Asian Society of Dermatopathology Annual Meeting. January 26–27, 2024, 大阪
11. Wang L, Kuma Y, Omura H, Ito T, Nakahara T. Paclitaxel-induced Scleroderma in a Patient with Primary Cardiac Angiosarcoma. 14th Meeting of the German-Japanese Society of Dermatology, Post Congress. June 26–30, 2024, 東京
12. Koizumi S, Ichigozaki Y, Kitagawa H, Kiniwa Y, Sato S, Takai, T, Doi R, Ito T, Kuwatsuka Y, Maekawa T, Asai J, Miyagawa T, Matsushita S, Funakoshi T, Yamamoto Y, Kishi A, Takenouchi T, Kokubu H, Ito S, Tanaka R, Yamamoto Y, Uchi H, Ishizuki S, Iino S, Nakagawa T, Inafuku K, Kaneko T, Nakagawa M, Kamiya H, Hoashi T, Arima M, Asagoe K, Hiura A, Haga T, Ishikawa M, Manabe K, Iwasawa U, Hatta N, Minami S, Nakamura Y. Prognostic impact of the surgical deep margin distance of invasive acral melanoma of the sole: A multi-institutional retrospective study. The 20th EADO Congress 2024. 2024/4/4–6, Paris, France.
13. Nakano E, Nakamura M, Kawashima S, Maruyama A, Ohe S, Kato J, Fujimura T, Omata W, Funakoshi T, Fujisawa Y, Maekawa T, Yamakawa K, Hatta N, Nakama K, Ito T, Matsushita S, Miyagawa T, Oashi K, Yamamoto Y, Namikawa K. Systemic treatment for patients with advanced Merkel cell carcinoma in Japan: A multicenter retrospective study. ESMO Asia Congress 2024, 2024/12/6–8. Singapore, Singapore
14. Namikawa K, Mori S, Kiniwa Y, Takenouchi T, Nakamura M, Oashi K, Yoshikawa S, Muto Y, Uchi H, Yoshino K, Maekawa T, Ohe S, Uhara H, Ichigozaki Y, Asai J, Nakamura Y, Ishizuki S, Matsuzawa T, Kitagawa H, Nomura M, Funakoshi T, Natsushita S, Maeda T, Nakagawa T, Hoashi T, ishikawa H, Nakama K, Ito T, Miyagawa T, Nishizawa A, Yanagi T, Kato Y, Fujiwara S, Yamamoto Y, Iwata H, Ogata D, Fujisawa Y. Adjuvant therapy for Asian patients with resected stage III/IV BRAF V600-mutant melanoma with more than 3 years of follow-up: A multicenter retrospective study in Japan. The 20th EADO Congress 2024. 2024/4/4–6, Paris, France.
15. Yonekura K, Muto I, Takenaka M, Aoi J, Fujimura T, Amano M, Kanekura T, Miyagi T, Hatano Y, Kiyohara E, Shimauchi T, Watanabe K, Miyake T, Ito T,

Uhara H, Fujii K, Sudo A, Watanabe T, Iwatsuki K. A randomized, open-label, multicenter, 2-dose parallel-group, phase II study of Bexarotene in Patients with ATL (B-1801 study). HTLV conference 2024 June 2-5, 2024. London, UK.

## 国内学会

1. 竹内 聡, 和田 遥, 河野 正太郎, 吉澤 誠司, 中原 剛士. 壊死性リンパ節炎を伴った全身性エリテマトーデスの1例. 2024年10月21日 第54回日本皮膚免疫アレルギー学会学術大会 ビッグパレットふくしま(郡山市)
2. 竹内 聡, 膳所 菜保子, 中原剛士. 弾性留置針による接触皮膚炎. 2024年10月18日 第73回日本アレルギー学会学術大会 国立京都国際会館(京都市)
3. 竹内 聡, 石倉 侑, 高原 正和, 加納 壘, 中原剛士. *Trichophyton indotineae*による難治性体部白癬の1例. 2024/9/8(日) 第76回日本皮膚学会西部支部学術大会 あわぎんホール(徳島市)
4. 竹内 聡, 塩道 泰子, 中原剛士. DLST が診断に有用であったフェブキソスタットとエゼチミブによる乾癬型薬疹の一例. 2024/8/24(土) 第39回日本乾癬学会学術大会 グランフロント大阪 北館 B2F ナレッジキャピタル コングレコンベンションセンター(大阪市)
5. 竹内 聡, 松本紗也加, 中原剛士. アトピー性皮膚炎における新規外用剤の使い分け、当科の使用経験. 2024/6/7(金) 第123回日本皮膚科学会総会 国立京都国際会館(京都市)
6. 竹内 聡, 首藤 史帆, 松本 紗也加, 米田 玲子, 桐生 美麿, 中原剛士. 頭部皮下腫瘍として生じたFibroepithelioma of Pinkusの1例. 2024/5/10(土) 第40回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会 シーガイアコンベンションセンター(宮崎市)
7. 中原 剛士. 本気で治す方法を考える -皮膚科医として、皮膚の内側をどう診るか?- . アトピー性皮膚炎治療研究会 第29回シンポジウム 2024年2月3日(浜松) (スポンサードシンポジウム)
8. 中原 剛士. アトピー性皮膚炎の生物学的製剤による治療と展望. 第10回総合アレルギー講習会 生物学的製剤の適正使用と有効性 2024年3月16日(横浜)
9. 中原 剛士, 室田 浩之, 能登 真一, 松川 美幸, 武田 裕枝, 戸田 力也. アトピー性皮膚炎患者(成人及び小児)での習慣性搔破の実態. 第40回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会 2024年4月21日(宇都宮)

10. 中原 剛士. アトピー性皮膚炎診療の均てん化に向けて ~6年で見えてきた適切な治療ステップ~. 第127回日本小児科学会学術集会 教育セミナー32 2024年4月21日 (福岡)
11. 中原 剛士. アトピー性皮膚炎の最新治療 アトピー性皮膚炎の治療 これまでとこれから 長期寛解維持におけるレプリキズマブへの期待. 第123回日本皮膚科学会総会 2024年6月6日 (京都) (スポンサードシンポジウム)
12. 中原 剛士. AD治療におけるかゆみマネジメントの重要性. 第123回日本皮膚科学会総会 2024年6月7日 (京都) (スポンサードシンポジウム)
13. 中原 剛士. 皮膚を診る、病態を推測する、治療戦略を考える アトピー性皮膚炎長期寛解のために. 第123回日本皮膚科学会総会 2024年6月8日 (京都) (スポンサードハンズオンセミナー)
14. 中原 剛士, 室田 浩之, 能登 真一, 松川 美幸, 武田 裕枝, 戸田 力也. アトピー性皮膚炎患者でのステロイド外用薬への不安尺度 TOPICOP に関する研究. 第123回日本皮膚科学会総会 2024年6月6-8日 (京都)
15. 中原 剛士. 皮膚の病気に伴う痒みとその新しい治療. 日本毒性学会 第21回市民公開セミナー 2024年7月6日 (福岡)
16. 中原 剛士. 病態から考えるアトピー性皮膚炎治療 疾患別に開発された JAK 阻害薬への期待. 第142回日本皮膚科学会山陰地方会 2024年9月1日 (鳥取)
17. 中原 剛士. 病態理解に基づくアトピー性皮膚炎の治療戦略 ~適切な外用療法で目指す治療ゴール~. 第76回日本皮膚科学会西部支部学術大会 2024年9月7日 (徳島)
18. 中原 剛士. アトピー性皮膚炎治療における保湿外用薬の使用意義について ~ヘパリン類似物質の新たな作用メカニズム~. 第88回日本皮膚科学会東部支部学術大会スポンサードシンポジウム5 2024年9月15日 (宮城)
19. 中原 剛士. アレルギー疾患・病態別の好酸球性炎症の役割 皮膚疾患における好酸球. 第73回日本アレルギー学会学術大会 シンポジウム14 2024年10月19日 (京都)
20. 中原 剛士. AhR 調節の意義から考えるアトピー性皮膚炎の治療戦略. 第73回日本アレルギー学会学術大会 シンポジウム14 2024年10月20日 (京都)
21. 中原 剛士. AhR 調節の意義から考えるアトピー性皮膚炎の治療戦略. 第88回日本皮膚科学会東京支部学術大会 2024年11月17日 (東京)
22. 中原 剛士. アトピー性皮膚炎の病態理解 ~皮膚からわかること~. 日本皮膚科学会新潟地方会 第416回例会プログラム 2024年12月14日
23. 中原 剛士. 新時代のアトピー性皮膚炎治療戦略~臨床試験結果から紐解くイブグリースの真の価値~. 新潟地方会共催セミナー 2024年12月14日 (新潟)

24. 中原 剛士. 新時代のアトピー性皮膚炎治療戦略～臨床試験結果から紐解くイブグリースの真の価値～. 第 54 回日本皮膚免疫アレルギー学会 2024 年 12 月 21 日 (福島)
25. 中原 真希子. 教育講演 40 酒さの病態 アトピー性皮膚炎のかゆみ –その病態と対処法–. 第 1 2 3 回 日本皮膚科学会総会. 2024/6/6-9 (京都)
26. 中原 真希子, 千葉貴人, 水澤雄太, 東裕子, 指宿敦子, 井川哲子, 村上有美, 松中浩, 冬野洋子, 辻学, 中原剛士. 部位別アトピー性皮膚炎病変部の角層サイトカインプロファイルの解析—顔面と体幹の相違についての検討—. 第 54 回 日本皮膚免疫アレルギー学会学術大会. 2024/12/20-22 (福島)
27. 辻学. アトピー性皮膚炎における IL-13 の役割. 日本アレルギー学会第 10 回総合アレルギー講習会 2024, (東京都)
28. 辻学. アトピー性皮膚炎における IL-13 の役割. 第 353 回日本皮膚科学会長崎地方会 2024, (長崎市)
29. 辻学. アトピー性皮膚炎における PDE4 阻害による細胞内シグナルの調整について. 第 123 回日本皮膚科学会総会 2024, (京都市)
30. 辻学. 化膿性汗腺炎の‘勘どころ’. 第 123 回日本皮膚科学会総会 2024, (京都市)
31. 辻学. リンヴォックの真価を探る—「痒み」に悩む中等症以上のアトピー性皮膚炎に対する治療戦略—. 第 48 回日本小児皮膚科学会学術大会 2024, (東京都)
32. 辻学. 爪白癬 完全治癒への“あと一歩”. 第 117 回日本皮膚科学会群馬地方会 2024, (前橋市)
33. 辻学. 尋常性乾癬の病態における AhR の役割. 第 39 回日本乾癬学会学術大会 2024, (大阪市)
34. 辻学. 乾癬治療におけるソーティクツの役割. 第 39 回日本乾癬学会学術大会 2024, (大阪市)
35. 辻学. アトピー性皮膚炎の病態を踏まえた外用療法. 第 75 回日本皮膚科学会中部支部学術大会 2024, (名古屋市)
36. 辻学. 膿疱性乾癬(汎発型)と尋常性乾癬の臨床症状の違いを発症メカニズムから考える. 第 76 回日本皮膚科学会西部支部学術大会 2024, (徳島市)
37. 辻学. アトピー性皮膚炎の病態から考える外用療法. 第 88 回日本皮膚科学会東部支部学術大会 2024, (仙台市)
38. 辻学. 乾癬の IL-23 依存性・非依存性について. 第 415 回日本皮膚科学会新潟地方会 2024, (新潟市)
39. 辻学. アトピー性皮膚炎の長期寛解維持を見据えた治療戦略. 第 88 回日本皮膚科学会東京支部学術大会 2024, (東京都)
40. Gaku Tsuji, Ayako Yumine, Koji Kawamura, Masaki Takemura, Kazuhiko Yamamura, Takamichi Ito, Makiko Kido-Nakahara, Takeshi Nakahara. Difamilast, a topical

phosphodiesterase 4 inhibitor, induced CREB-mediated production of human beta defensin 3 in human keratinocytes. 日本研究皮膚科学会第 49 回年次学術大会・総会, 2024, (名古屋市)

41. 辻 学. アトピー性皮膚炎の病態から考える治療戦略～外用療法を中心に～. 第 54 回日本皮膚免疫アレルギー学会学術大会, 2024, (郡山市)
42. 工藤 恭子. 小児皮膚科医が考える外用コントロール, アトピー性皮膚炎治療研究会第 29 回シンポジウム, 2024 年 2 月 3 日 (浜松市)
43. 工藤 恭子. 何から使う? 乳幼児期からのアトピー性皮膚炎治療, 第 110 回山陰小児科学会共催セミナー, 2024 年 3 月 24 日 (松江市)
44. 工藤 恭子. 小児の年代別外用スケジュールを考える, 第 123 回日本皮膚科学会総会イブニングセミナー, 2024 年 6 月 8 日 (京都市)
45. 工藤 恭子. 小児皮膚科医が考える外用コントロール, 第 73 回日本アレルギー学会学術大会共催セミナー, 2024 年 10 月 19 日 (京都市)
46. 工藤 恭子. かゆいのも痛いのもイヤです, 第 73 回日本アレルギー学会学術大会イブニングセミナー, 2024 年 10 月 19 日 (京都市)
47. 工藤 恭子ほか. スキンケア, 第 61 回日本小児アレルギー学会学術大会ハンズオンセミナー, 2024 年 11 月 3 日 (名古屋市)
48. 中村 美沙, 藤井 晴香. 小児に発症したドロレス顎口虫による creeping disease の 1 例. 日本皮膚科学会第 411 回福岡地方会 2024/11/23. (福岡)
49. 伊東 孝通. BRAF 陽性メラノーマにおける治療選択-術後アジュバント終了後に再発した症例. 第 40 回 日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会 ランチョンセミナー6. 2024 年 5 月 11 日 (宮崎市)
50. Ito T, Tanaka Y, Ichiki T, Kaku-Ito Y, Nakahara T. KS-EMPD-1: A novel cell line of extramammary Paget disease. (Oral presentation in International Session) The 123rd Annual Meeting of Japanese Dermatological Association 2024/06/6-9 Kyoto, Japan
51. 杉山 晃子. 小児アトピー性皮膚炎の治療戦略 ～全身療法導入の工夫～ アレルギー学会九州沖縄地方会 教育講演 2 2024 年 2 月 17 日 (福岡)
52. 杉山 晃子, 岡部 公樹, 福嶋 健人, 押川 千恵, 岸川 禮子, 本村 知華子, 柴田 瑠美子, 小田 嶋博, 本荘 哲, 森脇 篤史, 吉田 誠. 食物アレルギー患者の小児から成人への移行期医療について. アレルギー学会九州沖縄地方会 2024 年 2 月 17 日 (福岡)
53. 杉山 晃子. 夜間の掻破から視る痒み評価の有用性. 第 40 回日本小児臨床アレルギー学会学術大会 教育セミナー. 2024 年 7 月 14 日 (大阪)

54. 杉山 晃子, 岡部 公樹, 福嶋 健人, 押川 千恵, 岸川 禮子, 本村 知華子, 柴田 瑠美子, 小田嶋 博, 本莊 哲, 森脇 篤史, 吉田 誠. 移行期の食物アレルギー診療における福岡県の取り組み. 日本アレルギー学会学術大会. 2024年10月18-20日 (京都)
55. 伊東 裕美子, 伊東 孝通, 田中 由香, 種子島 桂子, 一木 稔夫, 中原 剛士. 皮膚有棘細胞癌の新規細胞株 KS-cSCC-1 の樹立. 第40回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会 2024年5月10-11日 (宮崎市)
56. 大野 麻衣子, 大野 文嵩, 一木 稔生, 伊東 裕美子, 冬野 洋子, 中原 剛士. 多形腺腫3例の病理組織学的検討. 2024年9月7日. 第76回日本皮膚科学会西部支部学術大会 (徳島市)
57. 山村 美華, 永楽 訓三, 柏木 謙一郎, 稗田 道成, 野村 秀幸, 原 寛. MSSAによる心内膜炎を契機に IgA 血管炎を発症した高浸透圧高血糖状態の1例. 第98回日本感染症学会学術講演会. 2024年6月28日 (神戸)
58. 山村 美華, 稗田 道成, 柏木 謙一郎, 多田 斉, 有田 好之, 諫山 加奈, 関口 直孝. 慢性期病院における老年医学包括ケアのための皮膚科と内科の連携とその重要性. 第32回日本慢性期医療学会. 2024年11月15日 (横浜)
59. 山村 美華, 田中 摩弥, 柏木 謙一郎, 稗田 道成, 山村 和彦, 関口 直孝. プロテウス症候群による左母趾巨趾症・左第2,3趾切断術後の難治性胼胝下潰瘍の1例. 第5回日本フットケア・足病医学会年次学術集会. 2024年11月30日 (神戸)
60. 隈有希, 一木稔生, 木下伊寿美, 伊東孝通, 小田義直, 中原剛士. 右鼠径部の皮下結節. 第40回日本皮膚病理組織学会総会・学術大会 2024年1月28日 あべのハルカス (大阪)
61. 隈有希, 中原真希子, 冬野洋子, 猪口淳一, 小田義直, 江藤正俊, 中原剛士. Enfortumab vedotin による皮膚障害. 第123回日本皮膚科学会総会 2024年6月7日 国立京都国際会館 (京都市)
62. 一木 稔生, 伊東 孝通, 小田 義直, 中原 剛士. 線維肉腫型の DFSP における PRAME 発現の検討. 2024/9/7-8. 第76回日本皮膚科学会西部支部学術大会 シンポジウム3 「西部研究の潮流」. あわぎんホール, (徳島)
63. 藤井晴香, 中村美沙. 国内感染したエムポックスの1例. 日本皮膚科学会第409回福岡地方会 2024年7月21日(久留米市)
64. 石倉 侑, 酒井 雛子, 西尾 紀一郎, 占部 和敬. Multiple miliary osteoma of the face の1例. 日本皮膚科学会第408階福岡地方会 2024年3月10日 (福岡市)
65. 石倉 侑, 酒井 雛子, 西尾 紀一郎, 占部 和敬. 色素性乳房外 Paget 病の2症例. 第123回日本皮膚科学会総会 2024年6月6日 (京都)
66. 石倉 侑, 酒井雛子, 西尾紀一郎, 占部和敬. IgG4 関連皮膚疾患の1症例. 第76回日本皮膚科学会西部支部学術大会 2024年9月7日 (徳島市)

67. 河村 耕治, 辻 学, 隈 有希, 冬野 洋子, 山村 和彦, 一木 稔生, 伊東 孝通, 中原 真希子, 中原 剛士. 梅毒性乾癬の2例. 日本皮膚科学会 第411回福岡地方会 2024年11月23日, アクロス福岡(福岡市)
68. 竹井 樹, 橋本 弘規, 菊池 智子. 九州中央病院における帯状疱疹入院患者の統計的観察. 第123回日本皮膚科学会総会. 2024年6月6日 (京都)
69. 王 黎亜, 横山 翌香, 園本 格士朗, 中原 剛士. 第411回福岡地方会. 生物学的製剤投与下の乾癬性関節炎に合併した梅毒の1例. 2024年11月23日 (福岡市)
70. 杉 悠太, 村田 真帆, 酒井 雛子, 占部 和敬. オシメルチニブメシル酸塩投与後に生じた好酸球性環状紅斑の1例. 日本皮膚科学会第409回福岡地方会 2024年7月21日(久留米市)
71. 松本 紗也加, 竹内 聡, 橋本 弘規, 大野 文嵩, 中原 剛士. 顆粒細胞腫の2例. 第408回福岡地方会. 2024年3月10日 (福岡市)
72. 松本 紗也加, 仲本 すみれ, 中原 剛士. OASIS細胞外マトリックスを用いて分層植皮を行った1例. 第411回福岡地方会. 2024年11月23日 (福岡市)
73. 和田 遥, 竹内 聡, 土方 貴道, 大野 麻衣子, 山本 賢, 中原 剛士. 乾癬型薬疹と鑑別を要した皮膚筋炎の一例. 第411回日本皮膚科学会福岡地方会. 2024年11月23日 アクロス福岡国際会議場(福岡市)
74. 黒木 千晶, 水野 亜美, 廣瀬 朋子. アテゾリズマブ投与中に発症した水疱性類天疱瘡の一例. 日本皮膚科学会 第408回福岡地方会 2024年3月10日 (福岡市)
75. 黒木 千晶, 辻 学, 冬野 洋子, 中原 剛士. ビメキズマブからグセルクマブのバイオスイッチで軽快した乾癬の1例. 第39回日本乾癬学会学術大会 2024年8月25日 (大阪市)
76. 黒木千晶, 辻 学, 隈 有希, 一木 稔生, 伊東 孝通, 冬野 洋子, 中原 真希子, 中原 剛士. 左下腿に難治性潰瘍を生じた Infantile myofibromatosis の1例. 第75回日本皮膚科学会中部支部学術大会 2024年10月12日 (名古屋市)
77. 田中 宏治, 永井 貴子, 塩道 泰子, 井手 豪俊. 放射線療法が奏効した破壊型基底細胞癌の1例. 第409回福岡地方会 2024年7月21日 (久留米)
78. 利谷理沙子, 大野文嵩, 井上慶一, 武信肇, 伊東孝通, 中原剛士. 二次感染を起こした増殖性天疱瘡の一例. 2024年11月16日 第88回日本皮膚科学会東京支部学術学会 京王プラザホテル(東京)
79. 酒井 雛子, 石倉 侑, 西尾 紀一郎, 占部 和敬. 急性汎発性膿疱性細菌疹様皮疹を呈したサラゾフルファピリジンによる薬疹. 第123回日本皮膚科学会総会 2024年6月7日 (京都)
80. 酒井 雛子, 杉 悠太, 村田 真帆, 占部 和敬. オーグメンチン配合剤による薬疹の2例. 日本皮膚科学会第410回福岡地方会 2024年9月29日 (北九州市)



81. 酒井 雛子, 杉 悠太, 村田 真帆, 占部 和敬. 悪性リンパ腫治療後に出現した多発性エクリン汗孔腫の1例. 日本皮膚科学会第411回福岡地方会 2024年11月23日 (福岡市)
82. 高木 健志, 今村 桜子, 園山 浩子, 佐々木 諒, 平田 晃. スクラッチパッチテストで診断した点眼薬による接触皮膚炎. 日本皮膚科学会第155回広島地方会. 2024年9月1日 (広島大学医学部広仁会館)
83. 高瀬 耀一, 栗原 雄一, 福島 伯泰, 中原 剛士. 指端壊死を生じた寒冷凝集素症の一例. 令和6年7月21日 日本皮膚科学会第409回福岡地方会 久留米シティプラザ 5階 大会議室 (福岡)
84. 高瀬 耀一, 栗原 雄一, 石井 文人, 中原 剛士. 後天性表皮水疱症の一例. 令和6年11月23日 日本皮膚科学会第411回福岡地方会 アクロス福岡 4F 国際会議場 (福岡)
85. 金田 海弘, 山村 和彦, 古森 環, 大野 文嵩, 中原 剛士. 自家皮膚細胞懸濁液が奏効した小児下肢広範囲熱傷の1例. 2024年7月21日 第409回日本皮膚科学会福岡地方会 久留米シティプラザ (久留米市)
86. 中山 優香, 橋本 弘規, 一木 稔生, 大野 文嵩, 山村 和彦, 中原 剛士. 踵部に生じた局所型多発性glomangiomyomaの一例と当院のグロムス腫瘍のまとめ. 日本皮膚科学会西部支部学術大会、2024年9月7-8日 あわぎんホール (徳島)
87. 能登 真一, 室田 浩之, 中原 剛士, 松川 美幸, 武田 裕枝, 戸田 力也. アトピー性皮膚炎患者における重症度とQOL及び労働生産性との関連性に関する研究. 第123回日本皮膚科学会総会 2024年6月6-8日 (京都)